

心理学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Psychology

- 修士（心理学）
- Master of Arts in Psychology

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人の心と行動に関する様々な現象について、心理学の最新の知識と方法論を用いて理解し、説明し、問題を発見し、実証的に検討できる専門的能力を有するとともに、国境・文化、学問領域、職業分野等の壁を越えて人々と連携し、心と行動に関する日本と世界の多様な課題の解決のために、高い倫理観を持って、心理学的知見の活用や心理的支援の実践ができる高度専門職業人を養成する。

養成する人材像	上記の人材養成目的を踏まえて、最新の心理学の方法論や知識・技能を体得し、民間企業、官公庁、心理臨床の現場等で、他の分野の専門家と協働して問題の解決や価値の創造に貢献できる高度専門職業人を養成する。
修了後の進路	自立した研究者となるための大学院博士後期課程への進学のほか、心理基礎科学サブプログラム修了後には、自治体、コンサルティング会社や教育関係民間研究所での心理学専門職、あるいは製造・流通業・IT 関連等、広く民間企業における人間に関わる研究をベースとする心理学専門職等、心理臨床学サブプログラム修了後には、公認心理師、臨床心理士の資格を得た上で、都道府県や市町村の公務員（心理職、一般職）、家庭裁判所（調査官補）、病院や精神科クリニック、教育相談センター等、臨床心理学の実践が必要とされる職場での心理専門職等

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（心理学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	心理学特別研究、心理学方法論、修士論文作成、学会発表、インターン実習
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	心理学特別研究、各領域専門科目、達成度自己点検
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	心理学特別研究、各領域専門科目、心理学インターンシップ、学会発表、達成度自己点検
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	心理学特別研究、心理学インターンシップ、TA 経験
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	心理学特別研究における論文指導、修士論文作成（先行研究レビュー並びに研究上の問題検討）に加え、心理学方法論1での英語論文作成に関する授業の受講、心理学先端研究、大学院共通科目（国際性養成科目群）、心理基礎科学英語の履修、国際会議発表、海外研究者との研究交流経験
	6. 心理学的人間理解力と問題発見力：人の心と行動を科学的に理解し、未解決の心理学的問題を発見できる能力	①心理学の多様な分野における研究方法と専門的知識を獲得し、人の心と行動の様々な現象について、心理学の観点から科学的に理解できるか ②心理学の特定領域における未解決の問題を発見できるか	心理学方法論Ⅰ・Ⅱ、心理学特別研究A、同B、同S、修士論文作成、心理基礎科学サブプログラム共通科目、同専門科目、心理臨床学サブプログラム共通科目、同専門科目 学会発表

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 心理学的問題解決力：研究倫理を遵守し、人の心と行動の問題を、心理学の方法論と理論や知見を活用して解決できる能力	①人の心と行動についての未解決の問題を、心理学の方法論と知識を活用して解決する計画を立案し、実行できるか ②実行した解決策の結果や得られた知見を、客観的に観察・記録し、妥当な考察を加え、解決策や知見の評価と修正ができるか	心理学方法論Ⅰ・Ⅱ、心理学特別研究A、同B、同S、修士論文作成、心理基礎科学サブプログラム共通科目、同専門科目、心理臨床学サブプログラム共通科目、同専門科目 学会発表
	8. 心理臨床実践力：心理臨床実務者としての倫理を遵守し、心理学の知識・方法論と心理臨床技能を活用し、心理臨床的支援を実践できる能力	①心理臨床実務者としての職業倫理を理解しているか ②心理査定法や心理的支援技法を実践できるか	心理学方法論Ⅰ、同Ⅱ、臨床心理基礎実習、臨床心理実習Ⅰ、同Ⅱ、発達臨床心理実習Ⅰ、同Ⅱ、心理療法特講Ⅰ、同Ⅱ、臨床心理査定演習Ⅰ、同Ⅱ、心理実践実習ⅠA、同ⅠB、同ⅡA、同ⅡB
	9. 心理学的情報発信力：研究倫理を遵守し、心理学の理論、方法論、研究知見を発信し、心理学の知識のない人に対してでも理解できるように説明できる能力	①研究倫理を遵守して、心理学の理論、方法論、研究知見を、研究会資料、学会発表抄録、論文等としてまとめ、発信することができるか ②心理学の知見を、心理学の知識のない人に対してでも理解できるように説明できるか	心理学方法論Ⅰ、同Ⅱ、心理学特別研究A、同B、同S、心理学キャリア形成、心理学インターンシップ、心理基礎科学英語Ⅰ、同Ⅱ、心理基礎科学演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、心理基礎科学サブプログラム領域専門科目、心理臨床学サブプログラム共通科目、同領域専門科目
	10. 多領域間コミュニケーション力：心理学の専門家として、他領域・多職種の専門家と議論・協働できる能力	①心理学の知見を、他領域・多職種の専門家が理解できるように説明し、質疑に答え、討論できるか ②他領域の専門家を尊重し、話を聴き、不明な点を質問して理解を深めることができるか	心理学キャリア形成、心理学インターンシップ、心理統計学基礎、心理基礎科学サブプログラム領域専門科目、心理臨床学サブプログラム、心理臨床学サブプログラム領域専門科目

<p>学修成果の 評価に関する 方針</p>	<p>当該年度に行う修士論文審査会で、研究指導担当・研究指導補助担当全教員は、各学生の提出した資料、プレゼンテーション、質疑応答に基づき、ルーブリックに従って汎用コンピテンス・専門コンピテンスの到達状況を判定する。2名の副査は論文本体の内容についてもルーブリックに従って汎用コンピテンス・専門コンピテンスの到達状況を判定する。また、論文公表、学会発表、競争的資金の申請・獲得、受賞等についても把握し、学修成果を示す補助的な成果指標として参考にする。</p>
<p>学位論文に 関する評価 の基準</p>	<p>筑波大学大学院学則に定められた要件をすべて満たしたうえで、学位論文が以下の評価項目に照らして妥当であると認められ、かつ、最終試験において合格と判定された場合に、修士の学位が授与される。</p> <p><評価項目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野における国内外の研究動向および先行研究を的確に把握したうえで、当該研究の心理学分野における学術的意義や位置づけが明確に述べられていること。また、論文作成の全過程において、研究不正（捏造・改ざん・盗用）やその他の有害な研究活動を行っていないこと。 2. 心理学分野の発展に資するオリジナルな研究成果が、修士論文として相応しい水準および分量で含まれていること。 3. 研究結果に対する考察が妥当であり、結論が客観的かつ論理的な根拠に基づいて導かれていること。 4. 研究の背景・目的・方法・結果・考察・結論・引用文献等が、心理学分野における修士論文としてふさわしい形式と水準で適切にまとめられていること。 <p><修士論文審査体制></p> <p>修士論文の審査を行うために設置される学位論文審査委員会は、主査1名および副査2名以上で構成する。副査は、原則として心理学学位プログラムに所属する教員の中から2名以上を選出するものとする。なお、教育会議の承認を得た場合には、学位プログラム外の教員を副査として選任することも可能とする。</p> <p><学位論文の評価方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ①学位論文本体への評価：学位論文は2名の副査が査読を行い、上記4つの評価項目につき、各項目のルーブリックに従って評定を行う。 ②最終審査会でのプレゼンテーションと質疑応答への評価：心理学学位プログラムの主担当・研究指導補助担当教員全員が最終審査会でのプレゼンテーションと質疑応答をルーブリックに従って評定する。①と②の評価を総合して修士論文全体の評価とする。

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

心理学学位プログラムでは、人間理解の要として心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにすることができるよう、必要な心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身につけ、同時に隣接諸領域・学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ちつつ、人間科学の専門家として社会に貢献できる問題解決能力を育成していく。

教育課程の 編成方針

心理学学位プログラム（博士前期課程）には、心理基礎科学サブプログラム、心理臨床学サブプログラムの共通の必修科目、学位プログラム基礎科目があり、さらにサブプログラムごとに、サブプログラム共通科目、サブプログラム領域専門科目を設けている。学位プログラム基礎科目の「心理学方法論Ⅰ」「心理学方法論Ⅱ」と各サブプログラムの領域専門科目（「教育心理学特講」ほか特講科目）によって、心理学の様々な分野における幅広い方法論と専門的知識を獲得する。これらの学びにより、5つの心理学専門コンピテンスを身につけることを狙いとする。「心理学特別研究A」「心理学特別研究B」「心理学特別研究S」の選択必修科目は、複数回開催される修士論文指導会と指導教員のゼミからなり、心理学的人間理解力と問題発見力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力を高めるとともに、知の活用力、マネジメント力、コミュニケーション能力も同時に育む。また「心理学インターンシップ」「心理学キャリア形成」などにより、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション能力を、さらに「心理基礎科学英語1」「心理基礎科学英語2」などにより、国際性の獲得を図る。心理基礎科学サブプログラムでは、上記に加えて、「心理基礎科学演習Ⅰ」「心理基礎科学演習Ⅱ」「心理基礎科学演習Ⅲ」「心理基礎科学演習Ⅳ」で、各分野における専門的な討論を重ね、各専門分野での心理学的人間理解力と問題発見力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力とともに、知の活用力等の汎用コンピテンスも高める。心理臨床学サブプログラムは、サブプログラム共通科目と領域専門科目に設けられている特講、演習、実習科目により、臨床心理学・発達臨床心理学の専門的知識、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5領域の心理的支援についての専門的知識、臨床心理面接並びに心理査定法の専門的知識と実施技能、心理臨床実務者としての実践能力獲得するとともに、5つの専門コンピテンスが獲得できるよう整備する。なお、心理臨床学サブプログラムのカリキュラムは、(公財)日本臨床心理士資格認協会の臨床心理士と、国家資格である公認心理師のそれぞれの受験資格が得られるように構成する。以上に加えて、学術院専門共通基盤科目、大学院共通科目を履修することにより、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性をさらに身につける。各科目の評価は、客観式テスト、レポート、その他の成果物、実技、実習時の行動観察等に基づいて行い、評価方法は、各科目のシラバスに記載する。

<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<p>心理学学位プログラム（博士前期課程）における学修の方法は、講義と演習と実習に大別される。必修科目の「心理学方法論Ⅰ」、「同Ⅱ」は心理学学位プログラムの各担当教員が、精通する方法論について講義するによるオムニバス科目である。特講科目は、基本的に担当教員による講義と質疑応答、受講生による討論を行う。「心理基礎科学演習Ⅰ」等の演習科目と「心理学特別研究A」等の論文指導の科目は、原則として、受講生が主体となって話題提供、担当部分の発表、実演等と討論を行う。心理学学位プログラムの特色のあるカリキュラムは以下のとおりである。</p> <p>①ニューロサイエンス学位プログラムの「神経科学基礎論A」「同B」「同C」「同D」を心理基礎科学サブプログラムの領域専門科目として履修できる</p> <p>②「心理学インターンシップ」は、一定の基準を満たす企業等でのインターンシップ経験を単位として認定する</p> <p>③「心理基礎科学英語Ⅰ」「同Ⅱ」は、一定の基準を満たした国際学会での発表と活動、海外大学開校の講座の履修を単位として認定する</p> <p>④心理臨床学サブプログラムでは、臨床心理士第一種指定校の実習として、筑波大学心理相談室又は筑波大学子ども相談室での学内実習を行うとともに、主に公認心理師養成のために、本学附属病院精神神経科、その他地域の施設での学外実習により、心理臨床実践力の向上に努める</p> <p>⑤汎用コンピテンスと専門コンピテンスの達成度評価は、入学時に自己評定を行い、その後2年進級時、修士論文提出時にTWINSの達成度評価支援システムにより自己確認を行う。コンピテンスの達成度は、各時点で指導教員が共有し、科目履修などの指導・助言を与える。</p> <p>⑥修士論文の副指導教員を入学後の早期に決定し、指導教員と副指導教員との共同指導体制で研究指導を行う</p>
---------------------------------------	--

入学受入れの方針 / Admission Policy

<p>求める人材</p>	<p>心理学学位プログラム（博士前期課程）では、心理学の方法論や知識・技能を意欲的に習得し、博士後期課程に進み、さらに心理学の研究を目指す研究者養成を志す人材に加え、公認心理師・臨床心理士資格を有した心理支援の実践者を目指す人材、さらに、感性工学・人間工学・認知工学に関わる専門家、社会調査および市場調査など社会心理的状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、心理学の専門性を持った公務員等、心理学の専門的研究能力をベースとする高度専門職を目指す人材を募集する。人間理解のための心理学を深く志す者を対象とし、自律的に学んでいく人材を求め、心理学に関係した学部出身者ばかりでなく、これから心理学を専門的に学び、追究しようとする人も募集する。</p>
<p>入学選抜方針</p>	<p>入学試験は一般入学試験により行う。一般入学試験では、専門試験、専門外国語試験（英語）、口述試験により選抜を行う。心理学全般に関する基礎知識、専門に関する外国語能力、研究実施能力ならびにコミュニケーション力を総合的に評価する。</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<p>以下の方法により、効果的な学修支援を行っている。</p> <p>①副指導教員体制を採用することによって、学生が指導教員とは異なる観点からの指導を受けられる機会を保障する。</p> <p>②学生支援チームを、学位プログラムリーダー、正副指導教員、学生相談のスタッフから構成し、一人一人の学生にとって最適の体制で、心理的適応支援を行う。</p> <p>③キャリア支援委員を設け、学内の様々なキャリア支援企画情報の提供を行っている。</p>
<p>学生同士の交流機会</p>	<p>以下の方法により学生のピア効果を高め、学修意欲と研究の質の向上を図っている。</p> <p>①全ての学生に対して院生控室に学内での居場所を提供し、前期・後期の他学生と交流しやすい学修環境を整備する。</p> <p>②1年次には、前期課程の2年生が受ける修士論文の指導会と審査会への出席を義務づけ、後期課程の学生の博士論文予備審査会・審査会への参加と見学を可能にすることにより、研究についての学生間の交流を促す。</p> <p>③学術院主催の「学生の集い」への参加を推奨し、他学位プログラムの学生との交流を促す</p>
<p>教員との交流機会</p>	<p>以下の方法により、教員との交流機会を提供し、学修意欲と研究の質の向上を図っている。</p> <p>①修士論文の指導会・審査会に学位プログラムの全ての担当教員が参加し、各学生に質疑と助言をすることで指導教員以外の教員との研究交流の機会を提供する。</p> <p>②学生・教員懇談会を開催し、学生から心理学学位プログラムにおける教育、研究指導、心理臨床実習、学生生活について幅広く要望を聴取し、学位プログラムが改善に向けて努力する。</p> <p>③学術院主催の「学生の集い」への参加を推奨し、専門を超えた教員との交流を促す。</p> <p>④新入生歓迎会など、学生主催の親睦会に、教員も参加して交流を図る。</p>

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

毎年度末に、学位プログラム教育成果検討会議を開催し、修士論文審査会の評価結果および学生の研究活動状況を踏まえ、サブプログラムごと・学位プログラム全体の教育成果を確認する。これらの結果を経年的に分析し、教育上の強みと改善点を把握した上で、必要な改善策を立案・実施し、教育の質保証につなげる。